

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500015		
法人名	株式会社 和		
事業所名	グループホームライフ		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓1089番地1		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	平成29年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590500015-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590500015-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年7月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺には田畑が広がり、ホームから季節を感じる事ができる。『笑顔でその人らしく』『温かみのある』『家庭的な』『地域の一員として』を理念とし、住人様一人ひとりに応じたケアができるよう職員は常に努力している。また、ご家族様との関わりにも努め、1ヶ月1回ホーム便りの発行、面会時、推進会議での情報公開、意見交換を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは周辺に田畑が広がり、消防署や市役所分庁舎、郵便局など公共施設も近く利便性の良い位置にある。管理者と職員は利用者へ寄り添い、利用者がこれまでに培ってきた「人格の尊厳」を理念に掲げて、ドライブや外食、買い物、散歩等日常的に支援している。利用者の「茶話会がしたい」と言う要望にも取り組んでいる。また、毎月ホーム便りを発行し、家族の声も大切に運営に反映させている。更に重度化や終末期の訪れにも指針を作成して、往診や訪問看護と医療連携して対応できるように努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生活できるよう支援する理念をつくり、目のつく所に掲げ実践につなげられるようにしている。	職員会議の中で話し合いを持ち、既存の理念を共有できるまでに至っていなかったことを反省して、これまでの理念を再度掲げて実践につなげられるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩がてら近くの店に買い物に出かけたり、地元の飲食店を利用し外食支援を行っている。	地域の中にある遊園地にドライブを兼ねて行き、外食をしたり、商店街に買い物に出掛けたり、また、併設のデイケアの利用者等と日常的に交流できるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等を通じ近況の状況をお話する事で、住人様の身体の状況を理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	住人様の状況、活動報告を行うとともに、民生委員や市職員の方に参加して頂き幅広い意見を取り入れる様に取り組んでいる。出た意見についてはミーティング等で話し合い実践に繋げている。	行政担当職員や地域の有識者、家族代表者が参加して定期的開催している。出された意見について、運営に反映出来るように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ訪庁したり電話連絡などで助言を貰っている。住人様の生活についても推進会議等を利用し報告したり実際の状況を観てもらっている。	ホームの実情を報告して相談し助言をもらうなど、協力関係を築くように取り組んでいる。運営推進会議の折にも相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	住人様の不安、ストレスの把握に努め日常生活において本人への声掛け、プライドを重視している。居室への出入りは自由でいつでもTV等視聴できるよう環境づくりに努めている。	身体拘束の弊害についてマニュアルを使って勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、時に、スピーチロックをしている事があり管理者が注意することがある。	外部研修の機会を設けて、それを基に内部研修を行い職員全員が身体拘束の弊害について正しく理解を深めるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体観察を行っている。繰り返しの訴え時、一人ひとりの状態、理解度に合わせて声かけ、見守りを心がけている。日々の生活の中で職員の言葉かけ、ケアの方法について話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、制度に関する研修等があれば参加して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。不安や疑問な点が無いように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	住人様にはいつでも意見、要望を言えるような雰囲気づくりに努めている。ご家族様には玄関先に意見箱を設置し、面会時に報告、意見交換を行っている。月一回通信を発行し各担当職員からの一言を入れている。	家族には毎月のホーム便り「ライフ通信」にてホームでの生活ぶりを届けている。面会時にはお茶を提供して、意見や要望を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の会議で意見交換する機会があり必要に応じて問題提起し意見や助言をもらっている。	管理者は日々のミーティングや職員会議の中で意見を聞き運営に反映できるように努めている。また、職員は管理者に気兼ねなく相談できる環境にあり、必要時は事業所内の会議室で相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりに応じて助言、指導をし、勤務状況、実績を把握し、各自が向上心を持って働く事が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修参加。定期的に内部研修も計画、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の際には、他の事業所職員との意見交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に不安等の感情を全職員が受け止め、出来る限りその住人様に関わる時間を作っている。また、本人、家族から今までの生活状況を聞き、本人との関わりを十分に持ち、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず家族の意見、要望をしっかりと聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを提供できるように、職員間で話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護しているという一方的な考えを持たずに、一緒に生活している者同士としての関係を築いている。今までの生活の中で得た知識を活かし、教えを頂きながら、支え合う関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等を面会時に報告している。職員で出来ない時には家族に協力をもらっている。定期的な通信を発行し、生活の様子等を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住人様のご家族や馴染みの方達が来訪された際にはゆっくりと話せる場を設けている。定期受診時やリハビリ時には馴染みの方と話が出来る様に時間を設けている。	帰宅願望のある利用者の中には家族と話し合い、協力のもとに日帰りや外泊にて対応している。なじみの面会者の場合にはゆっくりしてもらえる様に雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	住人様同士の関係性について把握し、心身の状態、日々の感情が変化する場合、住人様同士の関係が上手く行くように、職員が仲介役となり支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先の関係者へ今までのケア等の情報を提供している。また可能な限り面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の話を聞き、思いを把握し、希望が叶うようにしている。住人様を担当制にしている。問題があった場合はミーティング等で話し合いを行っている。	利用者を受持ち制にして思いや意向の把握に努めている。希望が出された場合は職員間で常に情報を交換して希望に沿えるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族から伺ったり、日常生活の中で一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事、出来ない事、心身状態の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	住人様の日々の暮らし方や、ご家族様の意見や思い、必要な関係者との話し合いを行い作成にあたっている。月1回のミーティング時にケース検討を行うとともに日常的にスタッフ間での情報交換を行っている。	利用者本位の介護計画は、家族の意向も取り入れて、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを生かしながらプランを作成している。定期的にモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言動、行動を記録し、職員間で情報が共有出来る様に努めている。また、記録を基にプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列病院がある為、医師、看護師との連携を密にしている。急変時には迅速に対応が取れるような協力体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店、公共機関へ出かけ住人様の方々を理解して頂き、様々な場面で連携に繋がるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、外来受診はいつでもできる状態にあり、必要時には主治医紹介により専門病院や家族に添った病院受診も行っている。	利用者のほとんどが母体病院をかかりつけ医としている。受診は家族の付き添いを基本としている。必要時、生活ぶりや状態を報告して、適切な診療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、心身の状態の変化、気づいた事があれば看護師又は併設する施設の看護師へその都度報告し、指示を仰いでいる。また必要に応じて受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者へ相談、情報交換を行っている。入院時には面会に伺い、問題が発生した時は住人様、家族、医療関係者、事業所との情報交換を密に行い、安心して治療ができるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢に伴い心身機能の低下もあり重度化は避けられない状況にあるが、必要に応じて家族との話し合いや主治医との連携を図り状態に見合った支援の在り方を検討している。急変時の対応については入居時に意向を伺っている。	利用開始の早い段階で重度化や終末期のあり方について、本人家族と話し合いながら方針を決めている。かかりつけ医や訪問看護と医療連携ができる体制を整えている。重度化の指針を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法、AEDの使用法等の研修会に参加している。事故発生マニュアルを基に対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いのもと避難訓練を行い、災害時にスムーズに対応できるように指導を受けている。又、併設施設と連携し夜間を想定した避難訓練を行っている。防災マニュアル整備も実施している。	年2回夜間想定を含む防災、避難訓練を消防署立会いの下に行っている。防災マニュアルも作成している。水や乾パン等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドが傷つかないように声掛けには十分配慮している。個人情報の取り扱いにも気を付け入居時には契約書を作成し署名、捺印を頂いている。一人ひとりの生活空間を乱さない様にしている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した優しい言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症であっても自己決定しやすいように工夫し、日頃から住人様の思いや希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、住人様一人ひとりに合わせ、その日の状態、思いに気を配りながら、出来る限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来る限り本人に選んでもらっている。本人の希望を聞きながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	住人様とスタッフが一緒に食事を摂っている。楽しい食事ができるように会話を楽しみながら支援を行っている。	併設の老人ホームから調理した食事が届けられている。職員と利用者は同じテーブルで会話をしながら一緒に食事をしている。利用者の経験を引き出して今年も梅干し作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、少ない方に補助食品等を使い、色々な工夫をしながら摂って頂くようにしている。一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、誘導、見守りを行っている。出来ない方へは介助をしている。夜間は洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けて足腰の筋力維持の為に機能訓練を行ったり、一人ひとりの排泄パターンを知り、時間ごとに声掛けや誘導を行っている。	排せつチェック表を活用して昼間はトイレで排せつが出来るように支援している。一人ひとりの個室にトイレが設けてあり、夜間のトイレ誘導をしやすくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェック表を活用し、水分量や食べ物、下剤の調整、腹圧マッサージや運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めているが、本人の状態、希望を聞きながら入浴出来る様にしている。又、季節を楽しめるようにバラ湯やゆず湯といった入浴の工夫をしている。	入浴は週3回と決めているが、できるだけ利用者の意向に沿えるように支援している。柚子やバラの花を浴槽に入れて、より入浴が楽しくなるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や身体状況に応じて、必要な安眠や休息が出来るように支援している。起床、就寝時間は個々の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を綴り、目的、用法などを確認、把握出来る様にしている。状態の変化、気づいたことは看護師に伝え、主治医との連携がスムーズに行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室のモップ掛け、洗濯物たたみ、干し等、一人ひとりに応じた能力を活かせるように努めている。希望に応じて買い物支援を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自力にて移動できない方も積極的に外出する機会を作り、ドライブや買い物、散歩、季節毎の花見などに参加している。	日常はホーム周辺の散歩を行い、遠出のドライブや花見や外食は計画を立てて利用者全員が参加できるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している。買い物支援や必要時には本人に渡し支払いをしている。定期的に家族へ出納報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば自由に電話を掛ける事が出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光、壁紙、広さに留意し、さらに清掃を徹底して行い、住人様の居心地の良い明るく清潔な共有空間作りを心がけている。	共用の空間は採光も程よく、掃除が行き届いて清潔に保たれている。リビングや廊下の要所に絵画や、利用者の梅干作りの様子や、団子作り等のスナップ写真が飾られて利用者の生活ぶりが伺える工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設施設へ行ききし、気の合う方同士語らいが可能になるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた布団やタンス、着慣れた衣類などをご家族様が用意し、シーツ交換、換気、居室の掃除をし、少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には家族の写真や利用者の使い慣れたタンスや寝具などが持ち込まれている。家族と話し合いながら、利用者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーに対応しており、各箇所には手すりが付いている。自立、安全を確保した環境になっている。一人ひとりの能力に合わせ出来る事を行っている。		